



グローバルPBL体験談

実施年度	2021年度
プログラム連番	165
実施形態	オンライン
担当教員	電子工学科 横井秀樹先生 電子工学科 上野和良先生 電子工学科 石川博康先生
実施期間	2022年2月9日～2月24日
実施協定校	キングモンクット工科大学トンプリ校（タイ）

参加学生体験談（要旨）

電子工学科

3年

今回のKMUTTとのgPBLはIoT機器を分解し、その中身とそれぞれの部品について詳しく調べると言う内容でした。僕たちのチームが今回分解したのはwebカメラで、中に入っているチップやセンサーについて詳しく調べ、普段調べることのできないような製品の中身を知ることによってさらに知識をつけることができました。

タイの学生と英語でコミュニケーションをとり、プレゼンテーションを行いました。英語で話すことに初めは抵抗がありましたが、タイの学生がとても優しくかったので、気兼ねなく話すことができました。また彼らは日本に興味があったので、活動以外にも多くのことを話しました。

とても充実した内容で、英語でのコミュニケーションだけでなく電子工学の知識もさらについたので、ぜひ参加してみると面白いと思います。

電子工学科

3年

市販されている製品を分解し、分解した製品について発表をすることがプログラムの主な内容なのですが、英語を使って海外の方と話し合いをすることと製品を分解することは頻繁にできることではないので、とても貴重な体験ができたと思います。

私は特に英語が苦手で、班員に助けられながらどうにかコミュニケーションをとりました。コミュニケーションがうまく取れないことに少し困るときがありましたが、この経験は英語ができるようになりたいと考えさせられるよい機会になったと思います。プログラムを終えてとても満足しています。

参加学生体験談（要旨）

電子工学科

4年

オンライン開催の為、直接タイの学生と交流することはできなかったのですが、オンラインで話すことでほかの国の文化に触れることができました。英語への抵抗も減りタイの文化にも触れることができる、とても良い経験となりました。

また、いつもは分解できない電子機器を教授の力を借りて分解し、教科書でしか見ることができなかった電子的な世界をまじかで体験することができました。

電子工学科

2年

本プログラムに参加した理由としては、英語によるコミュニケーションがどの程度必要かを確認したかったことが1番の理由です。また、製品の分解を通して、現在学んでいることが実際の製品においてどのような形で用いられているのかということに対して実感を得てみたかったということもありました。

本プログラムはタイのKMUTTの学生とSITの学生の合同のチームで、何らかの製品を選んで分解し、構成部品、動作原理を分析しプレゼンを行うといった形で行われました。私たちのチームはKMUTTの学生が3人、SITの学生が2人のチームでワイヤレスイヤホンの分解を行いました。

プログラムを終えて一番に感じたことは、英語を用いたコミュニケーションについて経験の不足です。しかし、今後何を行っていけばよいのかということについての見通しが明確になったことから、とても意義深い経験であったと思っています。また、ここ2年ほどの感染状況から、大学に入学してからあまり他者と積極的に協力して物事を進めるといった経験が少なかったように感じています。そのような中で、本プログラムの経験から様々得ることがありました。